

グループ アール・ジュニ設立趣意

現代の先進的メディアを中心におき、コンピューター、エレクトロニクスなどの新しいテクノロジーとの関連の中で、各種様々な分野のアートを統一的に総合し、新しい芸術にしようという趣意で設立した芸術グループです。

会員相互の間で最新情報の交換、協同作業、研究会、そして親睦を深めながら、躍動的に活動を進めて行き、新しい芸術世界を創り上げていくことを目的とします。

発起人委員会

山 口 勝 弘
伊 藤 隆 道
中 村 曜 子

会員（現在）

山 口 勝 弘	河 原 孝 夫
伊 藤 隆 道	馬 場 雄 二
田 崎 和 隆	三 田 村 峻 右
瀬 口 英 徳	山 崎 均
菊 竹 清 文	幸 村 真 佐 男
花 野 和 生	朝 倉 直 巳
石 井 勢 津 子	岩 田 藤 郎
佐 藤 慶 次 郎	横 山 昌 孝
滝 田 哲 治	遊 佐 伸 弥
小 寺 光 男	田 中 敬 一

（順不同）

グループ アール・ジュニ事務局

東京都中央区銀座6-3-2 ギャラリー月光荘内

(5 7 3) 5 0 2 1

ARTS-UNIS (アール・ジュニ)

命名のいわれ

私どもは永い間の夢として、エレクトロニクスやサイエンスを含むあらゆる技術・芸術を総合した新しい考え方に基づく芸術志向を模索し続けて参りました。

最近ようやく機が熟しまして有志の方々と一緒と発足できる運びとなりました。

私どものこの新しい考え方・運動・そして、その成果としての作品を皆様方に知っていただき、御賛同と御支援を賜わるためには、それにふさわしい名前が必要と考えます。

そこで色々とネーミングの方向を探りましたが、結論としての基本的考え方はいつも「あらゆる技術と芸術との総合・調和にあり」という点に帰着しました。

私どもはこの点が充分に取入れられ、しかも簡略な綴りでロゴタイプとしてもデザインしやすく、その上、発音も優美な名称が創造されることを願って、応用言語学者・工業デザイナー、そしてブランドクリエーターである松島廣美氏にネーミングを依頼しました。

同氏は、古代ギリシア・ローマ時代には「技術」も「芸術」もひとつの言葉、すなわち、ギリシア語ではTECHNE(テクネー)、ラテン語ではARS(アルス)によって一括して言い表わされていたという事実、また現在の英語・フランス語のART(アート・アール)もそうした意味を持っているという事実、それに特にフランス語の場合は発音が「アール」となって優美であるということなどからネームの主体にフランス語のART(アール)を使用することを考えました。そしてこの後にハイフンを介して「総合された」という意味のフランス語を付けました。それが「総合された諸技術・諸芸術」という意味のフランス語ARTS-UNIS(アール・ジュニ)なのです。

ART(アール)の語尾にSを付けると複数形となることは英語と同じですが、読み方は「アール」で、単数の時と変わりません。ARTの文法的性は男性です。UNIS(ユニ)はUNIR(ユニール)「結合させる」という動詞から来た過去分詞形容詞UNI(ユニ)の男性複数形で「結合された、総合された」という意味です。ARTS(アール)の語尾のサイレントのSは、その直後に母音で始まるUNISを従えているため[Z]として発音されます。それで全体では「アール・ジュニ」となるのです。

どうか、このARTS-UNISが双葉から成長して大きな樹となり皆様に心のためのオアシスを提供できますようご理解とご支援とをお願い申し上げる次第です。

アール・ジュニ活動企画書

「エレクトロニクスと芸術のジョイント」

主旨：

最近のエレクトロニクスの発展は、目を見張るばかりである。その影響力は、いろいろな世界におよび、それぞれに花を咲かせようとしている。特にコンピューターは新しい可能性を各界に持ちこんでいる。まさに使い時代になってきていると云えよう。芸術の世界においても、多様なかたちでエレクトロニクスやサイエンスが、そしてコンピューターがかかわりを持ちはじめている。

芸術家の創作意欲は活発で、新しいメディアへの挑戦もさかんである。発見と開発、そして完成が新しい創造の世界となる。その世界で、エレクトロニクスとコンピューターは興味ある対象となっている。しかしながら、それらは依然技術的に、又コスト的に数々の問題をのこして、従来のメディア程楽に使いこなせるものではない。

ところが周囲の要求は逆に、これらのニューメディアを使ったアーティストィックな表現を、作品を多く求め始めている。同時にエレクトロニクスを共通とした多くのニューメディアの統合した作品の完成をも求めているのである。

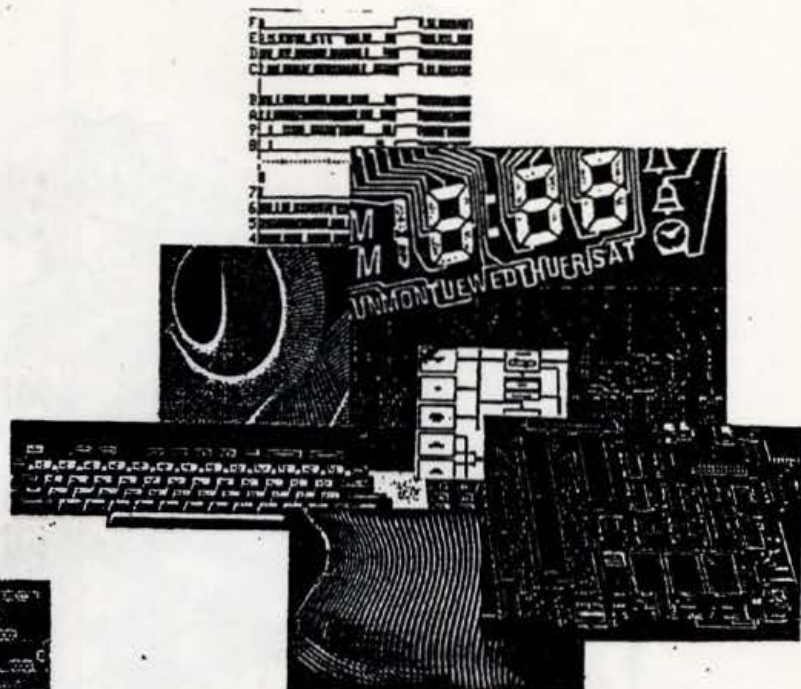
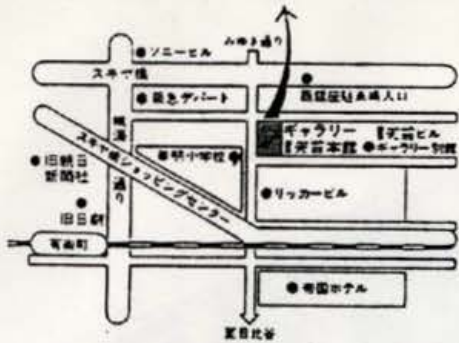
① グループ アール・ジュニは、このような環境のなかで、更に積極的にエレクトロニクス・ニューメディアを研究し、芸術的な場で完成させるべく、「エレクトロニクスと芸術のジョイント(キネティック・アート、ビデオ・アート、レーザー・アート、ホログラフィー・アート、シンセサイザー・ミュージック、コンピューター・グラフィック、ライト・アート、映像芸術)展」などを企画する。

② これらの分野の作品を銀座のみゆき通りに面したギャラリー月光荘の一隅で、展示するのに絶好の場所である会場で統合的に展示しようとするのが、アール・ジュニコレクションの常設展示である。

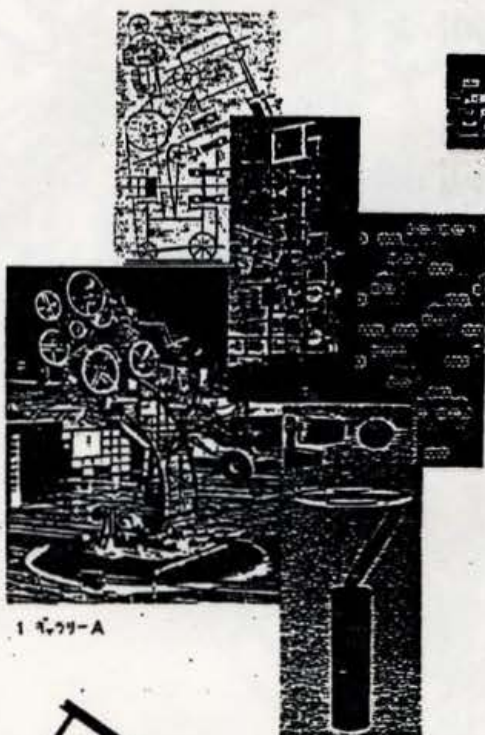
③ ワークショップの中心機能は、入手しやすい汎用コンピューターを中央制御機構としたマルチメディア・エレクトロ・マシオンである“アール・ジュニ・マーク1”であり、それぞれのアート・メディアをコントロールし、マニュアルでは操作しきれない多くのプログラムを、オブジェをコンピューターが人に代わって操作して行く。芸術的場の演出をコンピューターが助けてくれるというわけである。もちろん主役は、芸術情報の送り手と受け手であることは云うまでもない。

今迄に、それぞれが個々に発展されて来ているが、統合的に構成されて、それらが発表されるのは今回が初めての試みであり、同時にこれからのアール・ジュニ、統合芸術の姿を示す第一回の活動でもある。新しいアートの可能性をここに見出し、コンピューター・エレクトロニクスとアートとのかかわりが、ここまで来ていると云うことを認識していただき、また将来への示唆となれば幸いである。

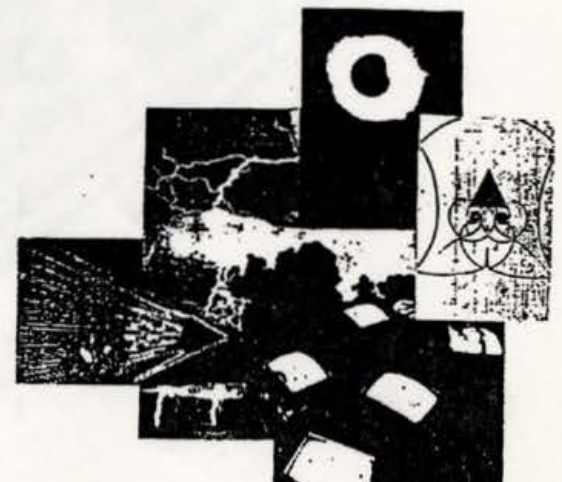
会場 / 銀座・ギャラリー月光荘 アール・ジュニ



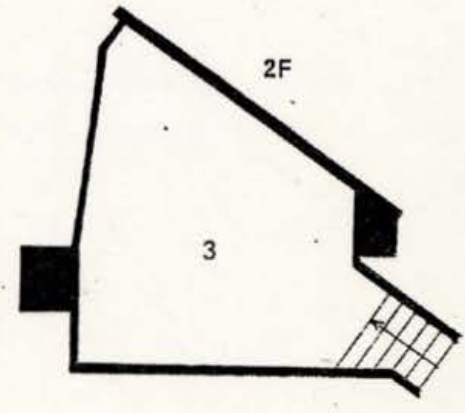
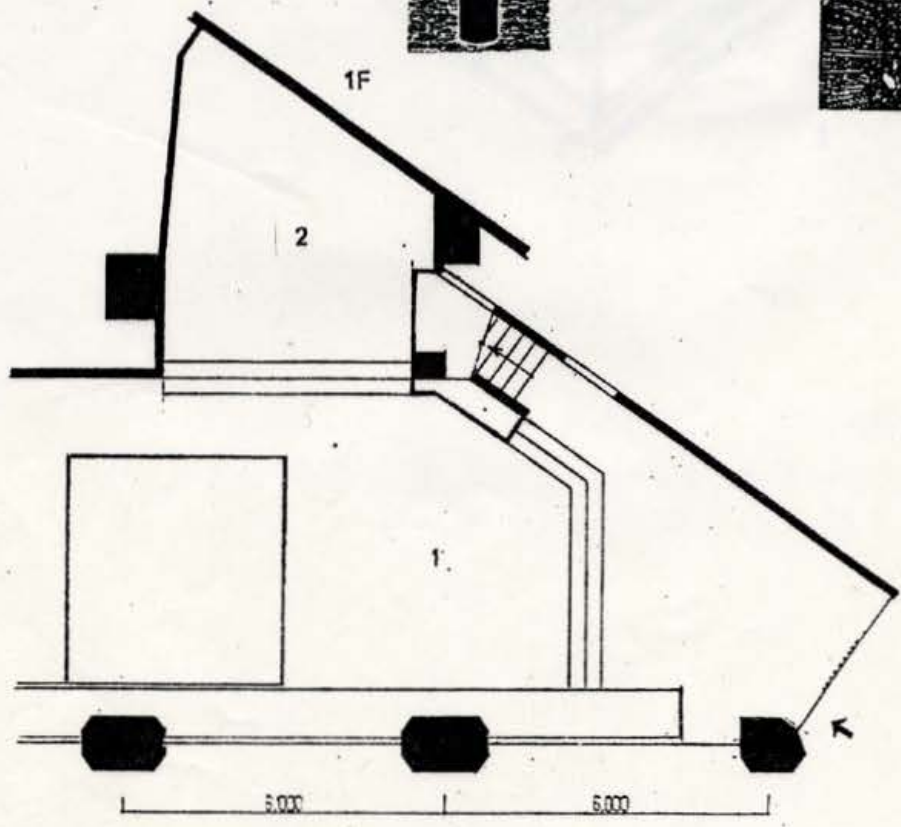
2 ギャラリーA



1 ギャラリーA



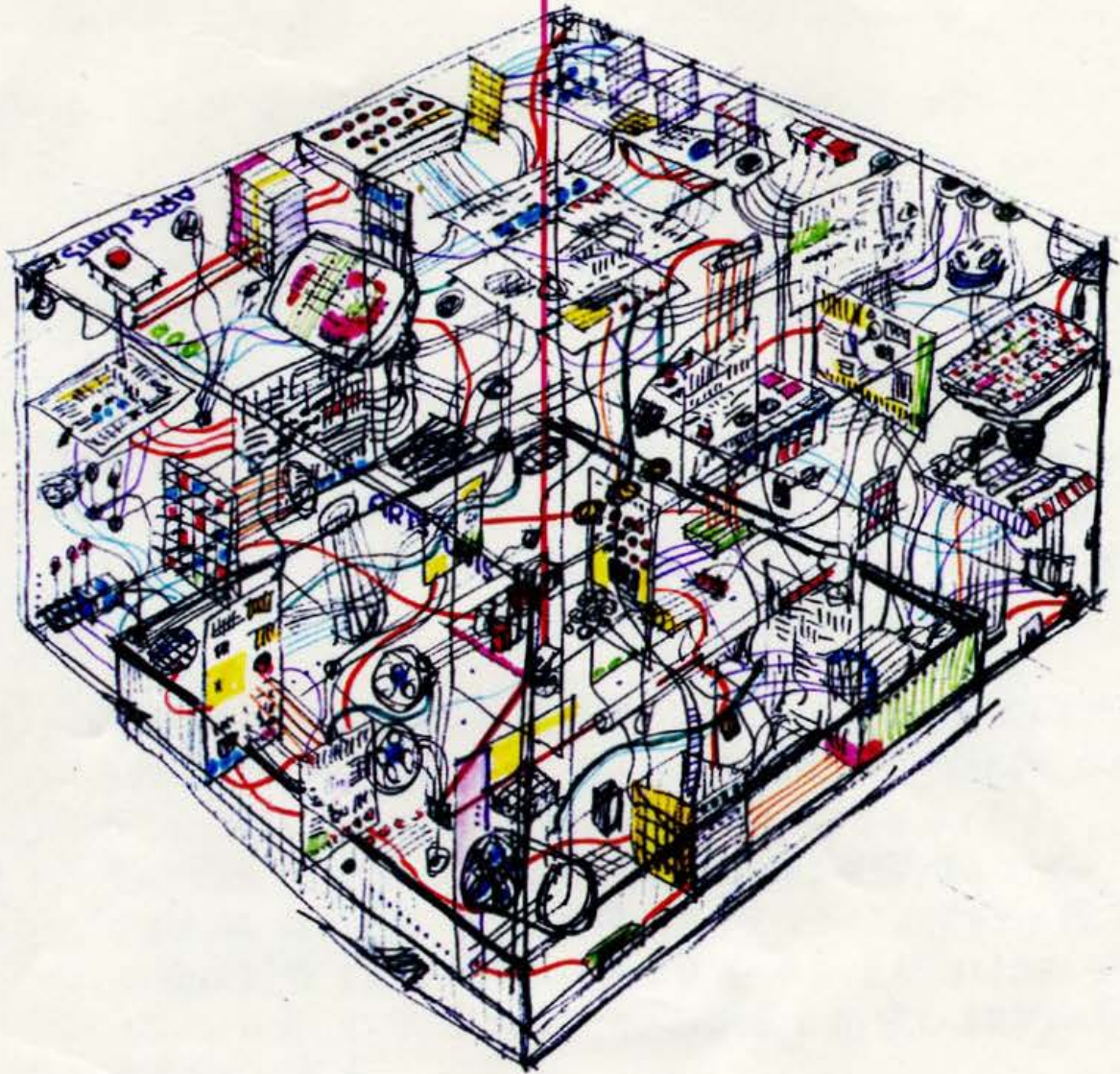
3 ギャラリーB : アール・ジュニ



← GINZA

MIYUKI ST.

HIBIYA →



● アル・ジュニ マーク1 (マルチメディア エレクトロマシン)

透明なアクリルで囲われたキュービクルなホルム。
LEDや各種信号パイロットランプが点滅し、内蔵された数個の
ディスプレイは幾何学パターンやビデオ映像をうつし出すグラフィック
ターミナル。

中央制御機構となる汎用コンピューター。マシン上部にとりつけられた
シンセサイザーキーボード、コンピューター入力キーボードによる指令、及び、
メモリーによりオーディオビジュアル機器をコントロールし、個々に、ある
はシンクロさせメディアルームを異次元の世界へと誘う。

機能おのおのの機器は、基盤ごとにマシン内部にレイアウト
され、それぞれシールドコード、カラーコードで有機的に結ばれ、エレクトロ
ルミネッセンス、レーザービームが基盤群の光のアクセントとなる。
光と映像とシンクロ、あるいは独自に演出する音響はレコーダー、
プロセッサなどの処理をした信号を受け、マシン内部とメディアルーム
四角に設置されたスピーカーにより、様々な位相コントロールがある。これ
マシンの光、オーディオスコープなどの効果と相乗し、独特の音場
空間をつくり出す。

● ギャラリー B アル・ジュニサロン

アルジュニサロンでは、大型モニターが数台おかれ、国内外のビデオ
作家の作品の発表、あるいはカメラを使ったイベント・パフォーマンス
など、新しいメディア・アートの発表の場となる。

SONY 文化の普及
VIC x NOS 23N
N-1274

EXPO SE

tole in Faint
EXPO SE

LEAT 7 2-10 Q&A
IYH 2-10 Q&A

SONY 中答, 下 井 岡, 小 林 山 口
EXPO SE
1-1 2-10

EXPO SE

EXPO SE
Tokyo N.Y.
BOMPAY 5 stock

EXPO SE
1-1 2-10

EXPO SE
Tokyo N.Y.
BOMPAY 5 stock

EXPO SE
1-1 2-10

EXPO SE
1-1 2-10

EXPO SE
1-1 2-10

EXPO SE
1-1 2-10

EXPO SE
1-1 2-10



095
61-311099